

# 広がる 遺族の輪

## 安全を訴える「聖地」に



御巣鷹の尾根の麓にある「慰霊の園」で開かれた追悼慰霊式で手を合わせる遺族関係者ら。12日午後、群馬県上野村（相川直輝撮影）

「遺族と日航、上野村の方々がこうした場を作られた。二度とあつてはいけなないと思いをはせた」と話した。東芝子会社「東芝デジタルソリューションズ」の社員で令和元年に過労自殺した安部真生さん（当時30）

長時間労働などを苦に自殺した広告代理店「電通」社員（当時）、高橋まつりさん（当時24）の母、幸美さん（62）は「遺族と日航、上野村の方々がこうした場を作られた。二度とあつてはいけなないと思いをはせた」と話した。東芝子会社「東芝デジタルソリューションズ」の社員で令和元年に過労自殺した安部真生さん（当時30）

遺族らが高齢化し、日航機墜落事故の記憶の継承が岐路に立つ中、御巣鷹の尾根の慰霊登山には近年、震災や他の事故の遺族らが参加する動きが広がりを見せている。あらゆる安全を訴える「聖地」となっている。（大渡美咲）

《初志貫徹 安全な社会を目指して》《健ちゃん健太との約束》。そう書いた野球ボールを美谷島健さん（当時9）の墓標に供えたのは、東日本大震災で長男の健太さん（当時25）を亡くした田村孝行さん（64）だ。健太さんは、七十七銀

の母、宏美さん（64）は「大切な人を失った悲しみを共有できる場だと感じた」と話した。

### 20代の娘2人を亡くした父の親戚

叔父は2人のお嬢さんのお仏壇やお墓をきれいにしていました。今はそれでもできない状態になっております。叔父は事故の件については話しませんし、私からもどう聞いていいのかわかりません。叔父の中で、今、どのような形であの事故のことが残っているのか、はかりかねています

### 20代の妹を亡くした女性

私が結婚して家を出た時、あなたは中学生、大人になったあなたといっぱいおしゃべりしたかった

### 20代の娘を亡くした男性

あえぎつつ 立止りつつ 登る尾根 先逝（ゆ）きし子の 声援（こえ）をうけつつ

### 両親と妹を亡くした男性

ひげも白くなり、手元の文字も見えづらくなりました。子どもたちも成長しました。40年の年月が流れたのだと改めて感じます。この間、色々ありましたが、こうやって生きているのも、どこかで見守ってくれているのからだ、と、時折、そう感じます。久しぶりに御巣鷹に登ってみようかと

### 30代の夫を亡くした女性

あれから40年目の夏がおとすれます。夫は、何年経っても若々しく格好良くおまけに美男子です。それに比べ私は古希になり顔はシワだらけ、頭は白髪でどこから見てもおばあちゃんです

### 50代の母を亡くした女性

「ただ一つ願いが叶うものならば 消えてなくなれあの夏の日よ」これは事故の後まだ若かった頃に綴った当時の気持ちの一説ですが、この思いは40年経った今でも全く変わらない

### 50代の夫を亡くした女性

哀しみにうちひしがれていた数年。やっと自分を取り戻すことができたからの数年。今は、穏やかに、のほほんと生きています。気力、体力はどんどん落ちていきますが...

### 息子(9)を亡くした女性

あの日から40年 家中を見渡すと「息子ははいようているのかな」と感じられる時がある。「お母さん、もう少し楽しんでから来てね」。少し照れ屋で臆病な亡き子の声が聞こえてくる。空港で別れた時の9歳のままで私に手を振る。わたしの時は止まったままで、茜雲の空に溶けていく

※「茜雲 そのあとに」から抜粋（原文のまま）。お求め先は「いのちを織る会」ホームページから